

筑後市社会福祉協議会 / 広報

人として

筑後市社会福祉協議会

(〒833-0032 筑後市野町680-1)

TEL 52-3969

FAX 53-6677

Mail info@chikugo-shakyo.or.jp

URL http://www.chikugo-shakyo.or.jp

私たちの手で 私たちのまちを 福祉のまちに…それが社会福祉協議会の目標です。

6月2日(日)・16日(日)の2日間に
分け、福祉員(地域の福祉の担当者、
福祉相談員(住民の福祉の相談窓口と
なる方)の新任者研修会を開催しまし
た。講師には、九州大谷短期大学の
中村秀一さんをお迎えしました。



福祉員 福祉相談員 新任者研修会

同じ地域で同じ時間を生きる私たちの
支え合い 助け合いの仕組み

人と人の繋がりがから
生まれるいきがい

高齢になると失うおそれがあるもの
が4つあると言われています。①
健康②お金③社会との繋がりが④いき
がいです。

①と②は、失っても日本には生存
権に基づいた社会保障などの制度が
あり、生きていくことができます。
しかし、③と④は、制度では解決
しにくく、人と人との繋がりがよって
生まれていきます。

昔は、近所の繋がりが強く、支え
合いは日常的なものでした。しかし
今は、支え合いの仕組みを意図的に
つくる必要がある時代なのかもしれ
ません。

2025年は目前!
これからも地域で安心して
暮らしていくために

団塊の世代が75歳以上になり、認

知症の方は700万人に……。これ
を2025年問題といっています。介護
が必要な人がどんどん増えていく一
方で、介護人材は不足しています。
今は、介護を受けている人は病院
や施設で最期を迎えることが多いよ
うです。しかし今後は、自宅で生活
し、病院や施設に通うことが増えて
くる見込みです。高齢になっても安
心して暮らすには、地域に見守って
くれる人の存在が重要です。

同じ地域に住む 私たちにできることを

地域には、1人暮らしの高齢者や、
生活に困っている人、ひとり親など
様々な課題を持っている人がいます。
そうした人たちが孤立しないよう
福祉員・福祉相談員をはじめ、地域
の方に見守りや声掛けをしていた
だいでいます。

福祉の目的は、「自分の人生はこ
れで良かった」と、誰もが思えるよ
うになることです。つまり、納得し
た生き方ができることなのです。

同じ地域で、同じ時間を生きる私
たちで、支え合いながら未来を一
緒に歩きませんか?

息子の不登校の経験が

多くの学びと多くの出会いを



6月4日(火)、不登校・ひきこもり家族会サルビアの会では、定例会を行いました。岩手県の「笑いのたねプロジェクト」の後藤誠子さんと匡人さん親子をお迎えしました。匡人さんが不登校・ひきこもりを経験し、自分にしかできないことがあると、居場所づくりや講演活動などを行われています。

*笑いのたねプロジェクト

詳しくはホームページ↓



高校生のときに

突然不登校に

高校生で不登校になった息子を、当時は、理由も聞かず無理やり学校へ連れて行こうとしました。何とか高校を卒業し、本人の希望で、東京の専門学校へ入学しました。岩手県からも遠く、心配しましたが、東京へも行き、不登校は治ったと思っていました。

しかし、しばらく経って、「実は学校に行っていない。もう行けないと思う」と電話がありました。その時も理由は聞かず、大変だった高校時代を思い出し、「お金をあげるから行って」とまで言っていました。その後一切連絡がとれなくなっていました。

私のかけた言葉に

息子は涙を流し…

なんとか連絡がつき、会いに行く

と、息子はひどい状態で、一緒に岩手へ帰ろうとしました。

しかし息子は、「帰りたくない」といい、私も世間体を考え、結局1年間息子を東京に残すことにしました。

私が岩手へ帰る時、2人でご飯を食べました。「1人で色々大変だったね」と声をかけると息子はピタッとまり、涙をこぼしました。

そして、「死ねなくてごめん」「こんな子どもが生きてごめん」と謝ったのです。

同じ経験をしている人に

出会い、安心しました

「このままで息子が死んでしまおう」と考え、他の人に頼ろうと思いません。

親の会に参加し、そこで同じような経験をしている人達と出会いました。話を聞いてもらい、私だけじゃなかった、一人じゃないと安心して大号泣しました。

その後、岩手へ帰ってきた息子は、ずっと家にいました。私は、「生きていれば、一生ひきこもっていい」と思っていました。

不登校・ひきこもりの会の家族会

サルビアの会

同じ立場同士なら話せる! 分かり合える!

とき 7月6日(土) 14:00~15:30

対象者 不登校やひきこもりの方のご家族

内容 学習会

ひきこもり家族相談会

とき 7月18日(木) 13:00~16:00

★7月11日(木) 17時まで

に要予約 (1日限定3名・匿名可)★原則来所での相談

ところ 筑後市総合福祉センター(野町680-1)

申込み・問合せ

筑後市社会福祉協議会 (筑後市野町680-1筑後市総合福祉センター内)

☎ 0942-52-3969 ☎ 0942-53-6677 ✉ info@chikugo-shakyo.or.jp

この広報紙は、点訳・音訳版も発行しています。ご希望の際は気軽にお尋ねください。

母が元気になると

自然と息子にも笑顔が

ひきこもりについて勉強するうちに、

私自身が変わってきました。私は自分で好きなことをやるうと考えました。

もともと表現することが好きだったこともあり、息子の経験から学んだことを伝えたいと、「笑いのたねプロジェクト」の活動につながっていききました。

活動をするうちに私が自然と元気になって、素のままに家にいられるようになりしました。

一方、息子の匡人さんもそんな母

誠子さんの変化を感じていました。

声のトーン、大きさ、はやさ、

足音で感じていた緊張感

普段から、母の声や足音で、家の中にヒリヒリしたものを感じていました。

しかし、母が好きなことをし始めると、それまでは「早く起きなさい」「働きの行きなさい」といった言葉

かけだったのが、「おはよう」「このテレビ面白いね」といった言葉に

変わっていききました。

そんな普通の会話をできるようにな
ってから、これまで気になっていた
母の声や足音も気にならなくなり、
家で休めるようになりました。

普通に生きて欲しいが

プレッシャーになることも

よく「普通に生きていて欲しい」と

言われます。しかし一般の人たちの「普通」が100段くらいの階段

だとすると、私達には200段くらいに感じ、プレッシャーになること

もあるのです。

今は、無理のない範囲で「笑いのたねプロジェクト」の職員として働

いています。

居場所活動では、来られた方と最近の出来事などの雑談をしています。

表情が明るくなって帰られるのを見るとやっけて良かったなと思います。

誠子さんは、「今、悩んでいる方がいたら、同じ経験をした人たちと

つながってほしい」と言われていました。社協では、家族会や相談会を実施しています。お気軽にご参加ください。

子育て世代を食で応援！
プロジェクト



市民の皆様から寄付いただいた食品(お米、インスタント食品、乾麺、調味料、フリーズドライスープ類など)を無料配布します。

日程：7月12日(金) 17:30~18:30

対象：小中学生の子どもがいる世帯

※数に限りがあります

※1世帯1セットの配布です

※筑後市在住の方に限ります

※ひとり親家庭の方は除きます。偶数月第2週目に実施する「ひとり親家庭のためのフードパントリー」をぜひご利用ください。

会場：筑後市総合福祉センター

○事前の申込みは不要です。直接お越しください。

問合せ／ 筑後市社会福祉協議会

☎ 52-3969 ☎ 53-6677

✉ info@chikugo-shakyo.or.jp



2024年
子どもクエスト 今年も開催！
総合福祉センター探検しよう！



総合福祉センター内に隠された動物のイラストを地図をたよりに探検しながら探そう！

日時 7月20日(土)・21日(日)
9:30~15:30
(センターは17:00まで利用可)

場所 筑後市総合福祉センター

参加費 300円
※全額赤い羽根共同募金の寄付となります。

申込み Googleフォームもしくは下記まで
筑後市社会福祉協議会

☎ 52-3969 ☎ 53-6677

✉ info@chikugo-shakyo.or.jp



社会福祉事業資金寄付

★ 香典返し寄付の部 ★

石橋 ヤス子様(故 正二郎様) 徳久
井上 雅歳様(故 ヨシ工様) 和泉西
實本 テルヨ様(故 芳幸様) 尾島
中尾 一雄様(故 清吾様) 常用
平塚 重生様(故 美砂香様) 二本松
村上 秀昭様(故 晴子様) 津島東
原口 茂雄様(故 平八郎様) 久富
中尾 順子様(故 猛様) 上富久

★ 一般寄付の部 ★

○マルタ印刷様から現金の寄付がありました。

★ 計 二二八、〇〇〇円

善意奉仕銀行寄付

● 預託の部 (物品口座)

○匿名様からシルバースティックの寄付がありました。
○匿名様、渡辺喜美様(水田上)からお米の寄付がありました。
○等心寺様(柳川市)から洗剤、衣類、食品の寄付がありました。
○匿名様からチャイルドシートの寄付がありました。

介護家族の会 コスモス 家族を介護している人のための

介護講座2024

7/21 (日) 介護の基礎 編
移乗や着脱など 介護の基本的な コツについて

8/4 (日) 高齢者の栄養 編
高齢者の低栄養 食事の工夫について

9/29 (日) 介護者の 元気作り 編
介護をしている人の 健康づくりについて

10/20 (日) ドッグセラピー 編
犬さんたちから癒しの パワーをもらいます

ところ 筑後市総合福祉センター (野町680-1)
時間 10:00~11:30
対象者 家族を介護されている方 コスモスの会員 等
参加費 無料
申込み 筑後市社会福祉協議会
☎ 52-3969 ☎ 53-6677
✉ info@chikugo-shakyo.or.jp



精神障害のある人のための 居場所・交流スペース

かたる〜む

★7月の開設日のお知らせ★

とき 7月12日(金)・26日(金)
13:30~15:00

ところ 筑後市総合福祉センター(野町680-1)

問合せ 筑後市社会福祉協議会

☎ 52-3969 ☎ 53-6677
✉ info@chikugo-shakyo.or.jp



事務局通信

高校生でヤングケアラーとなり不登校を経験した方の本を読みました。自死寸前まで追い込まれたこと、相談していいのか葛藤したこと、信頼できる先生に打ち明けたことが好転のきっかけとなったことなどが書かれていました。

その本の中にこんな言葉も。
「食べることも、生活することも、みんな誰かに助けられている。そう考えると助けてもらうことのハードルが低くなりませんか」と。

数年前に、お金を払っているんだから「いただきます」は、言わなくていいという考えが話題になったことがありました。

「いただきます」には、食材を作ったり、運んだり、時間という命をかけてくれた方への感謝の気持ちも込められています。

忘れてしまいがちですが、みんな支え合って暮らしているのです。

誰かに頼ったり、助けてもらうことが難しいときがあります。しかし、誰もが支え合って暮らしていると思うと、助けてもらうことは特別なことではないなと感じました。(実)